

# 日本地域学会ニューズレター

令和 6 年 no.1

令和 6 年 2 月 28 日

## 目 次

I. 副会長挨拶	... 2
II. 第 61 回日本地域学会年次大会(令和 6 年 10 月 5~6 日)のご案内 論文報告の募集について	... 3
III. 総会報告 名古屋大学で開催された日本地域学会総会についての報告	... 4
IV. 理事会報告 令和 5 年度第 4-6 回	... 5
V. 委員会報告	... 7
1. 学会賞選考委員会	
2. 優秀発表賞選考委員会(受賞者の紹介)	
3. 機関誌編集委員会	
VI. 会費納入のお願い 令和 6 年度会費請求額, 会費早期納入の特典, Web 会員について	... 9
VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ	... 10
VIII. 学会賞候補者推薦の募集	... 10
IX. 会員の移動	... 11

**注意：令和 6 年度会費請求書が同封されています。**

(納入期限 令和 6 年 3 月末日)

## I. 副会長挨拶

日本地域学会  
副会長 浅見 泰司

2021 年 10 月より日本地域学会の副会長を拝命しております。

私が地域科学 (regional science) という学問分野を知ったのは、修士課程に入学した頃です。都市工学専攻在学中に、恩師の下総薫先生、岡部篤行先生に、都市を解析する学問的な基礎を身に着けるには、地域科学を学ぶと良いと勧めいただき、そのための基礎勉強として、経済学、統計学、OR (operations research) などを勉強しました。そして、修士課程修了後にペンシルヴァニア大学の地域科学専攻に入学しました。

当時、地域科学専攻では、地域科学の産みの親である Walter Isard 教授も教鞭をとっておられました。Isard 先生との共同論文が一つだけあります。1989 年に *Journal of Regional Science* に発表した "Imperfect information, uncertainty and optimal sampling in location theory: An initial reexamination of Hotelling, Weber, and von Thünen" という論文です。これは、苦い思い出もあり、記憶に残る論文です。

Isard 先生とは、週末の午前中に会って、研究の進捗を発表し、その後の進め方を議論しておりました。当時はまだ、携帯電話も電子メールも普及していない時代ですから、当然に対面での議論です。ある朝、ほぼ約束通りの時刻にオフィスに伺うと、Isard 先生はゆっくりとコーヒーを飲みながら私を待ってくださっていました。お待たせしましたとは申し上げましたところ、Isard 先生はニコニコしながら、今何時か知っているかと尋ねられました。私は腕時計を見ながら答えたのですが、そうすると、実は今日から DST (daylight saving time) が始まったので、1 時間違っているよと指摘されました。何と大先生を 1 時間も待たせてしまっていたのです！すぐに平謝りしたのですが、すると Isard 先生

は「その可能性は大きいと思っていたから、気にしないで良い」と言ってくれました。こんな失礼を挽回するために、より頑張った成果が上記の論文なのです。というわけで、苦い経験でしたが、Isard 先生の寛大なお人柄のおかげで良い思い出にもなっています。

私が、ペンシルヴァニア大学で学位取得後、日本で就職してしばらくたった頃、ペンシルヴァニア大学で地域科学専攻をクローズする動きが始まりました。私がいた頃から学生数はさほど多くはなく、おそらくその後さらに人気落ちてしまっていたのだらうと思います。

アメリカにおける専攻のクローズというのはさほど珍しいことではありません。事実、それ以前には地理学専攻がクローズされ、地域科学専攻がその代替専攻になっていました。地域科学専攻の閉鎖をとどまらせるために、レターを書いてほしいと言われたので、学問的な重要性を述べるとともに、今後の改革策として地理情報科学を取り入れて強化してはどうかと建議しました。しかし、そのような努力もむなしく、地域科学専攻は廃止されてしまいました。地域科学が実務面から距離を置き、science の立場にこだわりすぎたための帰結だという指摘もあるようです。

ペンシルヴァニア大学の地域科学専攻はクローズされたものの、そこで学んだ人々は、様々な別の専攻で独自に学問を発展させています。国際地域学会 (RSAI) もあり、その日本 section である、日本地域学会もまた、その学問的な系譜を受け継いでいる一つです。また、regional science 関係の学術誌はいくつもあり、多くの論文が出されています。当学会が大きく貢献している *Asian-Pacific Journal of Regional Science* もその一つです。

ペンシルヴァニア大学における地域科学の経緯からは、地域科学は既存の学問ツールを大事にするだけではなく、社会や技術の変化・進歩に目を向けて、今日的な学問的社会ニーズを察知

して、自らの役割を見直していくことも大事であることが学べます。日本地域学会の運営においても、そのような意識をもって取り組んでいきたいと考えております。

## II. 第 61 回日本地域学会年次大会(令和 6 年 10 月 5~6 日)のご案内

令和 6 年度 (2024 年) 日本地域学会第 61 回年次大会は、東北学院大学において下記の通り開催されます。会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

### 記

開催日：令和 6 年 10 月 5 日(土)~6 日(日)

開催校：東北学院大学

会場：東北学院大学土樋キャンパス

980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

大会準備委員会：委員長 篠崎剛(東北学院大学  
経済学部・教授)

セッション：

#### 共通論題

- a) 地域経済・地域雇用
- b) 産業集積・情報
- c) 環境評価・環境政策
- d) 地域環境・地球環境
- e) 国際経済政策
- f) 交通・コミュニケーション
- g) 経済分析・モデル分析
- h) 意識分析・行動分析
- i) 地方分権・地方財政・道州制
- j) 持続可能都市・地域システム
- k) 都市再生・地域再生
- l) 沿岸域管理・海洋政策
- m) ツーリズム
- n) アジア経済

#### 一般論題

立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の

課題すべて

以上

#### 論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望される方は、下記の事項を明記し、学会事務局へ e-mail で応募して下さい。応募締切は令和 6 年 4 月 26 日(金)です。なお申込サイトは 3 月下旬に公開予定です。

##### [論文報告] 応募の必要事項

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属(複数の場合には発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract 和文(700 字以内)および英文(200words 以内)の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等
7. 希望討論者 2 名(会員に限る。必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

##### [特別セッション編成] 応募の必要事項

1. セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要(和文 300 字以内、英文 100words 以内)
2. 座長(1-2 名の会員) 氏名、所属、同英文表記
3. 1 セッション当たり 3-4 編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について 1 名でも可。
4. 応募責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募は次の学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

水野谷研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによるお問合せ: sec@jsrsai.jp

年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレターおよび学会ホームページにてお知らせする予定です。

学会 HP: <http://jsrsai.jp/ja/>

### Ⅲ. 総会報告

令和5年度総会が、去る令和5年10月8日13時15分より、開催されました。松本会長（中央大学名誉教授）より挨拶、同会長を議長として審議および報告が行われました。つづく学会賞授与式では、水野谷剛学会賞選考委員会副委員長からの経過報告の後、松本会長より受賞者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

#### 1. 議題

今期新入会員個人会員46名、退会会員個人会員35名について承認された。この結果、正会員1,025名、名誉会員29名、法人会員5団体となった。

##### 1) 令和4年度の事業報告の承認

水野谷総務担当常任理事より報告があり、承認された。

##### 2) 令和4年度の収支決算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があった後、廣野監事より監査が完了している旨報告があり、承認された。

##### 3) 令和6年度の事業計画の承認

水野谷総務担当常任理事より報告があり、承認された。

##### 4) 令和5年度の収支予算（修正案）の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、承認された。

##### 5) 令和6年度の収支予算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、承認された。

##### 6) 第61回（2024年）年次大会の開催地、開催校等の承認

水野谷総務担当常任理事より東北学院大学で行うことが報告され、東北学院大学の篠崎理事より大会案概要の報告があり、承認された。

##### 7) 第62回（2025年）年次大会の開催地、開催校等の取扱いの承認

水野谷総務担当常任理事より慣例に従い西日本の大学と開催の交渉を行うことが提案され、今後の取り扱いについては事務局に一任することが承認された。

##### 8) その他

特になし

#### 2. 報告事項

##### 1) 『地域学研究(53巻)』の編集

浅見副会長・機関誌編集委員長より編集経過の報告があった。

##### 2) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

氷鉋企画担当理事より編集経過の報告があった。

##### 3) RSAI の動向

木南（莉）副会長よりRSAI理事会審議内容等の報告があった。

##### 4) PRSCO の動向

鈴木庶務担当常任理事より2023年カンボジア大会実施と今後の大会予定の報告があった。

##### 5) その他

特になし

#### 3. 学会賞授与式

##### 1) 選考経過報告

水野谷学会賞選考副委員長より学会賞選考委員会における選考経過について説明があった。

## 2) 第 32 回学会賞授与者報告

松本会長より以下の各賞が授与され、受賞者による受賞挨拶があった。

功績賞：臼井功，高橋秀悦，徳永澄憲

論文賞（大石泰彦賞）：黛陽子，Md. Zia Uddin，水野谷剛

奨励賞：金承華，高尾美鈴

著作賞：福井秀夫

学位論文賞（博士）：鮎川瑞絵，Pema DORJI  
（熊田禎宣賞・修士）：齋藤光佑

R4 最優秀発表賞（第 15 回）：Jonathan Darkwah Baffoe

## 4. その他

## 5. 閉会の辞

## IV. 理事会報告

令和 5 年度第 4 回理事会（持回り）

日時：令和5年9月22日～9月26日（火）12：00

報告

1. 第 17 回修士論文賞及び第 3 回奨励賞の件  
令和 5 年度第 4 及び 5 回学会賞選考委員会（持ち回り）における日本地域学会第 17 回修士論文賞及び第 32 回奨励賞の各授賞者の決定について報告があり、これを諒承。

令和 5 年度第 5 回理事会

日時：令和 5 年 10 月 7 日（土）17:30-19:00

場所：名古屋大学経済学部 第 1 会議室およびオンライン（Zoom）

出席者：朝日，浅見，石橋，岩見 内田，大内田，鐘ヶ江，木南（莉），國光，櫻井，佐々木，篠崎，渋澤，鈴木，高野，高橋，多和田，徳永，中山，野崎（謙），氷鉦，藤田，正岡，松本，水野谷，三友，柳原，吉田，Yabar の各理事，（ただし，福井，梶井，戸田，原，藤岡，三橋の各理事より委任状付託；以上理事 28 名出席）；オブザーバとして，臼井名誉理事，廣野監事，池川，小川，野崎（乃），黛の各幹事，内村事務局秘書

議題

## 1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より，個人会員入会 11 名と退会 4 名の説明があり，これを諒承。この結果，正会員 1, 025 名，法人会員 5 団体となった。

## 2. 令和 5 年度第 60 回（2023 年）年次大会の運営について

柳原理事・実行委員長より挨拶があった後，第 60 回（2023 年）年次大会のタイムスケジュールやシンポジウムなどの詳細について説明があり，これを諒承。

水野谷総務担当常任理事よりプログラム変更について説明があった後，未決定の座長及び討論者の割り当てを行った。更に同理事より，学会賞授与式における各種担当者について提案があり，これを諒承。

## 3. 年次大会次期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より，次期開催校について紹介があった。

篠崎第 61 回（2024 年）年次大会実行委員長より，東北学院大学での年次大会の開催日程（10 月 5 日～6 日で仮予約・場合によっては変更の可能性あり）及び準備状況について説明があり，これを諒承。

## 4. 年次大会次々期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より，慣例に従い西日本での開催の提案と開催校募集についての説明があり，これを諒承。

## 5. その他

柳原理事・実行委員長より，今大会での懇親会の流れについて説明があり，これを諒承。

報告事項

## 1. 『地域学研究』第 53 巻の編集について

浅見機関誌編集委員長より，7 件の採択が決まっており，あと数本加わる見込みとの報告があった。

## 2. Asia-Pacific Journal of Regional Science

(APJRS)について

氷鉋企画担当理事より、特集号に関する計画の説明及び発刊状況についての説明があった。また、IF付与に関する報告があった。

### 3. RSAIの動向

木南(莉)副会長より、2023年4月、6月及び8月に実施されたRSAI理事会の内容と主な決定事項に関する報告があった。

### 4. PRSCOの動向

鈴木庶務担当常任理事より、PRSCOの会議を11月16日にサンディエゴをホストにオンラインで実施される旨の説明があった。2024韓国大会のエントリースケジュールの説明があった。また、次年度以降の開催候補地が報告された。

今年度で会長の職を終える予定の鐘ヶ江副会長・PRSCO評議員よりご挨拶があった。

### 5. その他

松本会長より、RSAIなどの国際大会でのセッションを組むことを推奨する旨の説明があった。

## 令和5年度第6回理事会

日時: 令和5年12月16日(土) 12:30-15:00

場所: 学術総合センター102・103 およびオンライン (Zoom)

出席者:朝日, 浅見, 石橋, 内田, 大内田, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 櫻井, 佐々木, 洪澤, 鈴木, 徳永, 中山, 氷鉋, 福井, 正岡, 松本, 水野谷, 柳原, 藪田, 吉田, の各理事, (ただし, 高野, 藤田, 野崎(謙), の各理事より委任状付託; 以上理事25名出席); オブザーバとして, 白井, 河野, 藤岡, 三橋, 高橋名誉理事, 廣野監事, 池川, 野崎(乃), 古澤, 黛の各幹事, 内村事務局秘書

## 議題

### 1. 新入会員・退会希望者の承認

内田理事・事務局次長より、個人会員入会4名と退会1名の説明があり、これを諒承。この結果、正会員1,028名、法人会員5団体となった。

### 2. 令和5年度第60回(2023年)年次大会報告

柳原理事・実行委員長より挨拶があった後、第60回(2023年)年次大会の決算と使途内容について説明があり、これを諒承。

### 3. 第61回(2024年)年次大会準備状況について

柳原理事より、東北学院大学での次期年次大会の準備状況について説明があり、これを諒承。

### 4. 事務局委託について

水野谷事務局長より、事務局委託の検討理由に関する説明があった。内田理事・事務局次長より、検討中の委託先の紹介と委託費用見積及び課題について説明があった後、議論がなされ、来年2月頃に再度検討会議を持つことになり、これを諒承。

### 5. 『地域学研究』セット販売の推進

内田理事・事務局次長より、『地域学研究』セット販売の推進についてお願いがあり、これを諒承。また、事務局を委託した場合の『地域学研究』のストックの保管方法についての意見が出され、これを検討することとなった。

### 6. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

内田理事・事務局次長より、新入会員勧誘キャンペーンの推進について、各地域の担当の確認がなされ、東北ブロックに東北学院大学の篠崎理事を追加すること及び北海道ブロックと九州ブロックの担当者の入れ替えを検討することで、これを諒承。

### 7. その他

氷鉋企画担当理事より、APJRSのEditor in chiefを2期(5年1期)務めることになるため、交代検討の依頼があり、これを諒承。

## 報告事項

1. 『地域学研究』第53巻および54巻の編集  
浅見機関誌編集委員長より、『地域学研究』第53巻2号への掲載論文本数及び同号は2024年2月に発刊の見通しである旨の報告と、現時点での第54巻の採択状況に関する報

告があった。

## 2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉋企画担当理事兼 APJRS Editor in Chief より, APJRS 各号の編集および発刊状況, 採択率, Site Score, Impact Factor について説明があった。また, SSCI ジャーナルとして認められるまでの見直しについての説明があった。

## 3. 令和5年度第2回学会優秀発表賞選考委員会及び第6回学会賞選考委員会報告

徳永学会賞選考委員会委員長より第16回優秀発表賞の選考結果及び最優秀賞選考委員候補者に関する報告がなされた。

## 4. RSAI の動向

鐘ヶ江副会長・PRSCO 評議員より, 2023年11月17日のミーティング内容に関する説明があった。また, 2024年にハンガリーで実施される世界大会についての案内の他, RSAI 会長選挙の結果, 渋澤理事が次期会長となることが報告された。また, 若手育成のためのワークショップを日本で実施することの検討等, 今後の方向性を検討している旨の報告があった。

## 5. PRSCO の動向

鈴木庶務担当常任理事・PRSCO 事務局長より, サンディエゴで11月に行われた PRSCO に関する会議の報告と説明があった。また, 今後の Summer Institute 等の予定と計画に関する報告があった。

鐘ヶ江理事より, Gender inclusive committee の設立計画, RSAI Super Region 及び次期 Vice president の選定に関する報告があった。加えて鈴木常任理事が PRSCO 事務局長として続投することになった旨の報告があった。

## 6. その他

特になし

## V. 委員会報告

### 1. 学会賞選考委員会

令和5年度第3回学会賞選考委員会 (持回り)

日時: 令和5年8月7-9日 (水) 12:00

議題:

1. 第17回熊田禎宣賞 (修士論文賞) 審査の件
2. 同上 審査委員の承認

1名の推薦があり, これを候補者にするこ  
と, また3名の審査委員を推薦し承認された。

令和5年度第4回学会賞選考委員会 (持回り)

日時: 令和5年9月13-15日 (金) 12:00

議題: 第17回熊田禎宣賞 (修士論文賞) 審査  
の件

審査結果に基づき授与の承認

熊田禎宣賞 (修士論文賞):

齋藤光佑 (富山県立南砺福野高等学校)

『食品ロス削減に関する研究-市場創造型  
イノベーションと組織学習によるアプロー  
チ-』(提出先: 新潟大学)

令和5年度第5回学会賞選考委員会 (持回り)

日時: 令和5年9月19-21日 (水) 12:00

議題: 第32回奨励賞受賞の件

推薦があり, 授与が承認された。

奨励賞:

金承華 (九州産業大学講師)

高尾美鈴 (大阪経済法科大学助教)

“Impact of Japan’s local community  
power on green tourism” Asia-Pacific  
Journal of Regional Science, Volume 6,  
February 2022, pp.571-591

令和5年度第6回学会賞選考委員会

日時: 令和5年12月16日 (土) 10:30-11:00

場所: 学術総合センター会議室 1階特別会議室  
102・103号室およびオンライン (Zoom)による

ハイブリッド形式

出席者：朝日，浅見，内田，櫻井，洪澤，多和田，徳永，氷鮑，藤岡，松本，水野谷，三友の各委員  
(以上委員 11 名出席)：オブザーバとして池川，崔，野崎(乃)，黛の各幹事，内村秘書

議題

1. 令和 5 年度第 60 回年次大会優秀発表賞選考の件

優秀発表賞選考委員会(委員長 徳永澄憲 麗澤大学教授)では，第 60 回年次大会での発表を対象とした厳正な審議により，下記の会員の方々に令和 5 年度優秀発表賞を授与する事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での審議は継続しており，今後，今回の優秀発表賞受賞者の中から 1 名の最優秀発表賞受賞者が決定される予定です。最優秀発表賞の授与式は，本年の年次大会(東北学院大学)で執り行われる予定です。

優秀発表賞：

天笠(広島大学)

主題：Should the entire firm adapt to environmental corporate social responsibility (ECSR)? Welfare comparison between full-ECSR and semi-ECSR

Md. Masud Rana (Niigata University)

主題：Role of National Agricultural Technology Program for rural farming community: An impact assessment study from Bangladesh focusing on Phase II

山本 玲於奈(大阪市高速電気軌道株式会社)

主題：建築ストック・フローに着目した災害廃棄物発生量の将来推計手法の開発

信岡 洋子(筑波大学)

主題：The role of Japan's energy sector financing in decarbonizing Southeast Asia: with a particular reference to Indonesia

玉井 和輝(東京理科大学)

主題：日本の農業従事者の潜在的レジリエンス

評価

Vo Hoang Ha (University of Tsukuba)

主題：Influencing factors for the post - flood recovery of households in Thua Thien Hue province, Vietnam

Xiaoxi Gao (Tottori University)

主題：Impact of regional characteristics on farmland transfer in municipalities, Japan

坂本 恵(新潟大学)

主題：食品関連企業における CSV 経営の実態—代替タンパク質に取り組む事例を焦点に—

Hemali Rathnayake(University of Tsukuba)

主題：Assessment of GHG mitigation potential in Rice cultivation Sri Lanka

2. 機関誌編集委員会報告

第 78 回機関誌編集委員会

日時：令和 5 年 12 月 16 日(土)11:00-12:00

場所：学術総合センター会議室 102・103 号室，及びオンライン (Zoom) によるハイブリッド形式

出席者：浅見，木南(章)，洪澤，松本，氷鮑，石橋，内田，鐘ヶ江，木南(莉)，櫻井，鈴木，高橋，多和田，廣野，福井，水野谷，柳原，吉田の各委員，(ただし，篠崎，徳永，野崎(謙)の各委員より委任状付託；以上委員 21 名出席)；オブザーバとして，河野，藤岡名誉理事，池川，崔，野崎(乃)，古澤，黛の各幹事，内村秘書

審議事項

1. 『地域学研究』第 53 巻 2 号，第 54 巻掲載候補論文の選考

浅見機関誌編集委員長より，現時点での『地域学研究』第 53 巻 2 号，第 54 巻掲載決定論文について説明がなされ，これを諒承。

2. 同上機関誌印刷方針

浅見機関誌編集委員長より，第 53 巻 2 号が 2 月発刊予定である旨の説明があり，これを諒承。

3. 2023 年度年次大会報告論文の座長評価による投稿推薦について

浅見機関誌編集委員長より、2023 年度年次大会で行われた研究発表について座長評価に基づき『地域学研究』への投稿推薦を行う旨説明がなされ、これを諒承。

4. その他

内田理事・事務局次長より、年次大会 Early-bird セッションで発表された論文について、査読依頼メールで教育的な観点からコメントを入れるよう依頼する旨説明がなされ、これを諒承。

報告

1. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鮑企画担当理事兼 APJRS Editor in Chief より、APJRS 各号の編集および発刊状況、採択率、Site Score、Impact Factor について説明があった。

## VI. 会費納入のお願い

日本地域学会会員各位

日本地域学会  
会長 松本 昭夫

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、日本地域学会令和 6 年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限 令和 6 年 3 月末日  
までに同封の振込用紙にてお支払いいただけますようお願い申し上げます。

なお、預金口座引落としの手続きを令和 6 年 3 月 22 日までに完了された方には、令和 6 年 6 月 27 日に請求内容にしたがって引落としを行いますので、お早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。また、学生会員年会費の適用には学生

証(写し)の提出が必要ですので、pdf か封書にて、学会事務局までお送りください。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。

敬具

1. 令和 6 年度日本地域学会会費等(適用期間限定)

令和 6 年度(令和 6 年 4 月 1 日ー令和 7 年 3 月 31 日)

一般会員年会費 13,000 円

学生会員年会費 8,000 円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

- 納入期限(令和 6 年 3 月末日)までに上記会費を納入された日本地域学会会員の方、
  - 令和 6 年 3 月 22 日までに預金口座引落としの手続きを完了された日本地域学会会員の方、
- または、
- 4 月以降に校費(公費)から支出する事を希望し、納入期限(令和 6 年 3 月末日)までにその旨、および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方、に限りますのでご注意下さい。

2. 会費の期限内納入の特典

上記納入期限に遅れた場合には、会費関連の事務処理が煩雑となることを考慮して、日本地域学会では、

- 1) 一般会員年会費として 14,000 円を請求する
- 2) 学生会員年会費として 9,000 円を請求するという事を決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル（本文 PDF）として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購読者認証申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格（令和 6 年 4 月 1 日ー令和 7 年 3 月 31 日）は以下のようになります。

- 1) 学会正会員である個人（Web 個人会員 A）年会費 2,000 円
  - 2) 学会非会員である個人(Web 個人会員 B)\* 年会費 5,000 円
  - 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 A) 年会費 10,000 円
  - 4) 本学非会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 B)\* 年会費 40,000 円
- \* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。

#### 4. RSAI（国際地域学会）への会員登録について

平成 23 年度から RSAI（国際地域学会）への会員登録の方法が変更になっております。従来より日本地域学会の会員は自動的に RSAI(国際地域学会)の会員として登録されておりましたが、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を軽減するため、会員情報を電子メールアドレスで管理する事になりました。したがって今後は、会費を納入する事に加え、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録することが必要となります。今後も引き続き RSAI (国際地域学会)の会員となることを希望される会員で、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録されていない方は、会費の納入に合わせて電子メールアドレスを事務局にお知らせください。

また RSAI への電子メールアドレスの通知に同意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、お知らせください。

## VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ

### The 28th Pacific Conference of RSAI

開催日：2024 年 8 月 5 日～7 日

開催地：Daegu, South Korea

会場：EXCO (Daegu Exhibition & Convention Center),

大会ホームページ：

<http://prSCO2024.krSAI83.or.kr/>

## VIII. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も日本地域学会学会賞（第 33 回）授賞選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞：地域科学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞：すぐれた研究論文によって地域科学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多大である会員を表彰する。

奨励賞：若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞：地域科学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多大である著作物を表彰する。

学位論文賞：本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞：年次大会においてすぐれた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第 33 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

◇応募期限:

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞

令和 6 年 4 月 3 日 (水) (事務局必着)

2) 優秀発表賞

令和 6 年 4 月 30 日(火) (年次大会発表申し込みと同時, 事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ, 優秀発表賞への応募は自薦のみですが, その他への応募は自薦, 他薦を問いません。専用の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格: 推薦者は, 日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等:

1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は, 過去 2 年間(暦年) に発表したもので, その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (Studies in Regional Science)』, Papers in Regional Science of the RSAI 又は Asia-Pacific Journal of Regional Science に掲載されている論文であることが条件です。

2) 奨励賞の応募については, 年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。

3) 著作賞の表彰対象となる著作物については, 過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

4) 学位論文賞については, 表彰の時点において修了後 3 年以内のもので, 当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表

しているか, または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお, 年齢による制限はありません。

5) 優秀発表賞については, 以下のいずれかである必要があります。①授賞対象となる論文発表の年度末において 30 歳以下である会員, ②授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員, ③年次大会の Early-bird Session (アーリー・バードセッション) で発表する会員であり, 理事会がその表彰を適当と認めた会員。更にいずれの場合も, 対象となる論文の第一著者であり, かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法: 「日本地域学会学会賞 (奨励賞・論文賞・功績賞) に関する規程」, 「日本地域学会著作賞に関する規程」, 「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」, 「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第, 受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第 61 回年次大会における総会 (令和 6 年 10 月 東北学院大学) にて執り行います。最優秀発表賞については, 翌年の年次大会で執り行います。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については, 年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

## IX. 会員の移動

令和 4 年 10 月 9 日～令和 5 年 10 月 8 日

新入会員

正会員 46 名

浅川 雅美	伊東 英樹	岡澤 由季
加藤 雄一	紀村 真一郎	黒宮 健一
坂上 公友	坂本 恵	佐藤 秀保

佐野 楓	澁谷 英樹	白沢 直人	名誉会員 29名
関根 祐貴	染矢 将和	高澤 陽二郎	法人会員 5団体
谷 聡悟	玉井 和輝	永井 真由子	
西 孝	長谷川 朋美	濱本 賢二	
福嶋 路	藤井 信吾	丸山 優樹	
森田 海咲樹	山田 光男	殿 一格	
夏 靖子	姜 茜	田 夢嵐	
辺 健隆	封 于欣	李 皓瑀	
梁 峻川			

DOUANGSAVANH Sombath

Dominguez Alvaro

HAYO, Lindiwe

ISLAM Md Shazzadul

James Liu

MOHAMED Liusha

NAHAR Nazmun

NGUYEN Thi Hai Ha

RANA, Md. Masud

SenoBudhi Ajar

UDDIN, MD. Zia

ZHOU, Yang

#### 退会会員

正会員 35名

雨宮 寛	石川 (石渡) 由紀	
枝川 明敬	大川 昌幸	大澤 俊一
大高 明	金子 昭彦	金田 一郎
河野 正道	小池 淳司	神頭 広好
坂田 裕輔	坂本 博	作間 逸雄
佐藤 充宏	須田 孝徳	瀧川 天陽
竹林 幹雄	富川 盛武	仲田 和生
永田 雅啓	西川 智	萩原 亨
花岡 千草	濱田 弘潤	平田 純一
牧田 修治	猿爪 雅治	道浦 貴大
村上 沙織	山本 祐吾	横澤 陸
和田 真理子	賈 奕真	Sohel RANA

#### 会員数

個人会員 1,025名